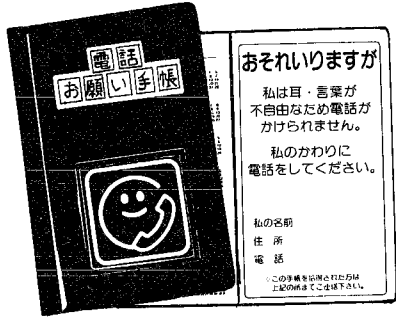


さわやか君

西村 完



いまではわたしたちの最も身近な通信手段となった電話。しかし、この便利な電話も耳や言葉が不自由なために自分一人では利用できない人がいるのです。ほんの3分間の親切です。オレンジ色の手帳を差し出されたら快く引き受け、その人の代わりになって電話をかけてあげるよう、ご協力をお願いします。



おそれいりますが
私は目、言葉が不自由なため電話がかけられません。
私のかわりに電話をしてください。
私の名前
住所
電話
この手帳を借用された方は上記の事項までご連絡下さい。



▲雪中の競技会風景

61年度桃せん定 競技会結果

2月28日

- 一位 大別当支部チーム
- 二位 農協青年部チーム
- 三位 月 鴻支部チーム
- 三位 下曲通支部チーム

- 重点目標
- 一、高齢者、身体不自由者等を中心とした死傷防止対策の徹底
 - 二、家庭及び地域における防火対策の推進
 - 三、特定防火対象物に係る防火安全の確保
 - 四、防災機器等の普及の推進
 - 五、異常乾燥時及び強風時の火災発生防止対策の推進

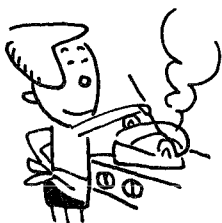
春の火災予防運動 ★4月1日～4月7日★

『防火の大役 あなたが主役』

私たちの身のまわりには、たくさんの「火災の種」があります。ちょっとした不注意から火災をおこさないよう、次の「火の用心7つのポイント」を守り、火災予防に心がけてください。

火の用心 七つのポイント

- 一、寝たばこやたばこの投げ捨てはしない
- 二、子供は、マッチやライターで遊ばせない
- 三、風の強いときは、たき火をしない
- 四、天ぷらを揚げるときは、その場を離れない
- 五、家のまわりに燃えやすいものを置かない
- 六、ふろの空だきをしない
- 七、ストーブには、燃えやすいものを近づけない。



毎日午後九時は

『消防の時間』

毎月七日は

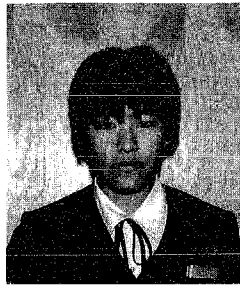
『消防の日』

明るい家庭づくり運動 県教育長賞受賞作文

わが家の歴史

月鴻中学校二年

近藤 八枝子



月平という人はすごい人だった。二つの小学校に二宮金次郎の銅像を寄付したり、村の神社に「忠魂碑」を立てたり、土手に桜の木を植えたりして、自分はどうなにかしい生活をして、村の発展のために頑張りました。五代目の孝平という人は、私の曾祖父にあたる人です。三十才くらいまで味噌、正油をつくり、それから先、郵便

局長として働いていたのですが、私の名前である「八枝子」という名前も実はひいおじいちゃんがつけてくれたものです。私はとてもかわいかったです。私にそのことを覚えてもらいます。それから六代目の熊弥、私の祖父です。熊弥とは、変わった名前だと思われるかもしれませんが、れっきとした名前の由来があります。一代目の熊七の熊と二代目の弥七の弥をとって、熊弥と名づけられたのです。そうすると、私の名は、「八枝子」ではなく「弥栄子」となるはずなのですが……。そこが、私のわからないところなんです。

七代目は、茂、つまり私の父。名の由来は、近藤の藤つまり「ふじ」が、茂るように繁栄するようにとつけられました。そして私、八代目の八枝子となるのです。私の家は、昨年十一月で味噌、正油をつくるようになって、ちょうど満九十年となりました。あと十年で一世紀。私の時代には一世紀となるわけですが、これだけ長い間のことです。苦しいこともありましたが、祖父が、私に教えて

くれました。一番苦しかったのは、やはり、戦中戦後。それは、原料が配給制度で思うように仕事ができなかったからです。戦争中、祖父は満州、朝鮮、今で中国、北朝鮮へ、兵隊として四年間も行っていたため、一時仕事をやめたこともありましたが、祖父が帰ってきたとき日本は「耐乏生活」となっていたそうです。ものが配給で、思うように食べられず、土手へ行き、食べれる草は食べ、それから、さつまいもの茎は、油でいため、ぜんまいの葉わりとして食べたりもし、ごはんは、まめやさつまいも、大根、かぼちゃを混ぜて食べたそうです。混ぜたといっても、さつまいもなどに米の粒がつくといった程度です。このころから私の家は、朝三時に起きて、夜寝る暇もないほど働いたといえます。時代の流れによって、やっと生活にも余裕が少しずつ出てきて、今のようになんか暮らしになったそうです。

私は、家の人から今まで何度も「店をつぶしてはならない」と言われてきましたが、その理由が祖父の話を聞いて

わかりました。私もそのとおりだと思えます。祖先の人たちみんなが、いっしょけんめい築き、守ってきた店だと知ったからです。祖父や、祖母たちは、口ぐせのように、「今の子は幸せだ」と言います。今の不自由もなく、戦争も知らない私たちは、本当に幸せだと、思わなければならないのです。しかしその反面、不幸だとも言います。それは、戦争で養った、辛抱強さがいいこと、それから物を愛し、大切に扱う心を失ったからです。私もそう思います。

私もこれから、苦しくなる時があるかもしれません。しかし、祖父たちの言葉を決して忘れずに生きていこうと思えます。祖先のみなさんが頑張ってきたのだから。

私は、このような歴史の家に生まれました。そんなに偉い人がいるというわけでもありません。しかし、私は、この歴史を誇りに思っています。これから先も、苦労しながらもわが家の歴史を築き上げてきた人たちのことを胸にきざみ、立派な、扇商店にしていきたいと思います。